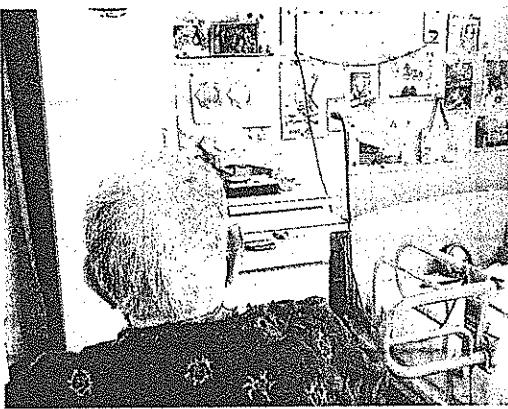


# 仕方なく「老健わたり」

報われぬ  
國

第3部 療養不安

負担増の先に



中部地方の介護老人保健施設にいるイノさんは  
「ここには友達もいる」と話す

## 「3カ月ごと判断」3カ所転々

### 介護老人保健施設

介護の現場の一部で、「老健わたり」と呼ばれる高齢者がいる。自分で書り、特別養護老人保健施設(老健)を渡り歩く人たちだ。東京23区内に住む女性(91)は2008年夏から背中を痛め、歩けなくなつた。それから約4年半たつ。この老健の相談員による紹介を受けていまの老健に移った。「歩けないが、終身」としきだ。

ふだんは病院の紹介で入った埼玉県の老健だつた。「特養」とちがい、終身の老健はベッド数100床につき医師1人、看護職員9人を配置しなければならない。平均の入所日数は特養の約4年に対し、老健は約1年になっている。

老健は介護を受けないと仕事があり頼めなかつた。特養は多くの高齢者(特養)にも入れる人ホーム(特養)にも入れない。仕方なく介護老人保健施設(老健)を渡り歩く人たちだ。

前にそう言われた。車いすから立つ訓練などを受け、半年たつと退所を求められた。だが、自宅には戻れなかつた。当時の要介護度は2番目に高い「4」。すでに夫を亡くし、恩夫婦とも同じく亡くなつたが、屋間は2人とも仕事があり頼めなかつた。

高齢者(特養)は、高齢者(老健)よりも、今年半ばには移つても

いれことになると思つ」と

相談員はいう。

老健は介護を受けないと仕事があり頼めなかつた。自分で払う費用は特養よりも少し高いが、有料老人ホームより安くすむ。た

めに、今年半ばには移つても

いれことになると思つ」と

相談員はいう。

この近くに住む70代の娘の嫁やへへか月通じて、まだ戻つてこない。

「この娘の嫁はお嬢としていたんだ出でるもの」と職員は語る。その理由は、介護保険から払われる報酬

の仕組みにある。

政府は12年度に介護報酬

を改定し、自宅に帰る人を

増やしたり、新しい高齢者

を多く受け入れたりした若

者自分で報酬を加算するよう

にした。

厚生労働省は、施設が足

りなかつたり介護報酬があ

らうなどしていひもので、

在宅介護を増やすとして

いる。老健にいる高齢者も

帰そうと促す。

しかし、100歳の男性

が70代の娘の家に帰つて

るのは珍しくない。

老健は容易ではない。

職員は現実と政策のギャッ

ブに悩みながら、出張りの

業務を受け入れている。

1月上旬、秋田県中部の

まちほの郷に雪が積

り始めた。5年前にベッ

ドから落ちて動けなくな

り、車いすの生活だ。ひと

り暮らしは難しく、「要介

護」の認定を受けて老健

に入つた。

その後も母を預けてきた

者も多い」と指摘する。

それでも自由で動けない

できれば、いいにぎりとい

うにぎりといつてほしい」

施設長は帰れるのは、

も入院したりして、家に帰

ることもあるが、退院すると

すぐに戻つた。

2年ほどたつたとき、60

代の娘は老健の相談員から

「そろそろ出て頂いてよい

ですか」と打診された。

どうしたが、いまは86歳になつた。半年で出る人は2

ヶ月に数万円の手取り收入し

たばかり。中部地方にある老

健の施設長はこう語る。

この老健では入所者の平

均年齢が80歳からは85歳ほ

どだつたが、いまは86歳になつた。半年で出る人は2

ヶ月に数万円の手取り收入し

たばかり。中部地方にある老

健の施設長はこう語る。